

本
格
昔
話

49 天人女房

男の人は漁師であつたですよ。それでまた、女がこの、水浴びをする時は、海から上がつてきてね、この人はもう、どういうきつかけでこの着物を見たかは知らんけれどね、この女が着る物を見かねて、松の木にきれいな衣装が掛けてあつたもんだから、それを盗んできて、自分の家の小屋に隠して、宝物にしておつたわけやて、長らく。それで、この女は、かわいがつてもう自分の家へ連れてきて、いたわつて。それからもう夫婦になつて。子どもも出来たつて。四、五年経つ間には二人の子どもが出来たつて。

それで、この子どもがね、下の子をお守りする時によ、どうしてもこのお父さんがね、着物をね、かねがね見かねておつたかどうか知らんけれども、子どもが生まれるまでお父さん、隠しているでしょう。この、かねがねお父さんが見る物を、子どもが見たでしょう、どうしても。それで、この上の子がよ、下の

子守をしながら、お母さんが夕御飯とかいろいろなものを作る時に、子どもの子守歌に、

「泣くなよ、泣くなよ」をして、下の子をおぶつて、あれしながら、子守しながら、

「どこどこにこういつた宝物があるから、大きくなつたらこの着物をね、着せてね、どういふふうにするから」というこれをね、この子が子守歌代わりに呼びよつたつて。上の子。それお母さんが不思議に思つてよ、「変だねえ、この歌は」と言つて。探したら、お母さん。ここに隠してあつたつて。

そうしてもう、お母さんは確かにこつちだねえと思つて、出して、その場でお母さんはもう、子どもたちと泣きの涙で別れて。お父さんが来るまではね、まあ、このお母さんはね、この着物着てよ、天に上つて行つたつて。

そして、そのいわれの川でもね、松林もこつちにあるわけよね。羽衣川といつてね。

類話

字北波平	当銘キヨ、大城正太郎
字阿波根	山内昌朝
字照屋	上江洲由豊
字真栄里	玉城フミ
字真栄平	喜納サト
字新垣	金城守正
字小波蔵	伊敷ヨシ、伊敷ヤス
字糸洲	神里カマ
字福地	殿内三吉
字摩文仁	伊集盛亀
字大度	玉城トシ
字伊原	上原孝助